

ターに相談。同センターの紹介で昨年(令和2年)12月から、甲府市社会福祉事業団の甲府市障害者センター(甲府市東光寺)の利用者さんに来てもらっています。

利用者さんが担当している作業は、ハウス内の清掃です。この時期はたくさんの花が咲き実を付けますが、その結果、通路にはたくさんの白い花びらが散ります。こうした花びらや株の手入れの際に落ちた葉っぱなどを放置しておくと、病気発生の原因になったりします。また、お客さんに気持ちよくいちご狩りを楽しんでもらうためにも、落ちた花びらの清掃は欠かせません。しかし、大きなハウス内を清掃するのは大変な作業で、時間もかかります。利用者さんたちは、月に4回程度、6、7人が1時間から1時間半、通路に落ちている花びらをほうきやちりとりを使って隅々まで清掃します。

丁寧でしっかりした作業 当初の不安は杞憂に

藤田さんは、ハウス内の通路を車いすでも通れるよう広くし、段差もなくして、障害者や高齢者も楽しめるようにバリアフリー化に取り組んでいます。お客さんとして障害者の方を迎えることも多い藤田さんですが「正直言って、仕事に関しては障害者の方に

お願いして大丈夫だろうかと思いました」と話し、当初は不安もあったそうです。しかし、実際に仕事をしてもらったら、まったくの杞憂に終わりました。

「作業は丁寧にしっかりしていて、私たちがするよりずっときれいになります。一緒に来ている職員の方の指導も的確です。清掃をやっていただくことで、自分たちは別の作業ができて、本当に助かっています」と、感謝します。今後はさらにいろいろな作業を頼もうと考えています。

清掃作業を担当している利用者さんたちは「お客さんに気持ちよくいちご狩りをしていただけるように、一生懸命に掃除しています。隅のところの掃除は難しいけど、きれいになるようにしています。ほかの作業もできるようにがんばりたいです」と、意欲を見せています。

信頼にこたえる仕事で 受託作業や農家を増やす

甲府市障害者センターは、ぶどう傘の洗浄を行うなど農福連携に積極的に取り組んでいて、いちご農家の作業は藤田さんが2軒目です。1軒目ではいちごの収穫が終わった後に苗を抜いて根を切る作業も任されています。同センター課長補佐で生活支援員の田中覚さんは「施設の中ばかりでな



「農福連携には、農家さん、農福連携センター、そして私どもの3者の信頼関係が大切です」と話す甲府市障害者センターの田中覚さん

く外での作業が加わることで、作業のメニューが増えて利用者さんの可能性が広がります」と、農福連携のメリットについて話します。

さらに「藤田さんには私どものことを理解していただき、作業スケジュールなどにも配慮していただいています。農福連携には、農家さん、農福連携センター、そして私どもの3者の信頼関係が大切です。その信頼にこたえられるようにしっかりした仕事をして、他の農家さんからも仕事のお話が来るようにしたい」と力を込めます。



いちご園内の花びらを
丁寧に清掃します